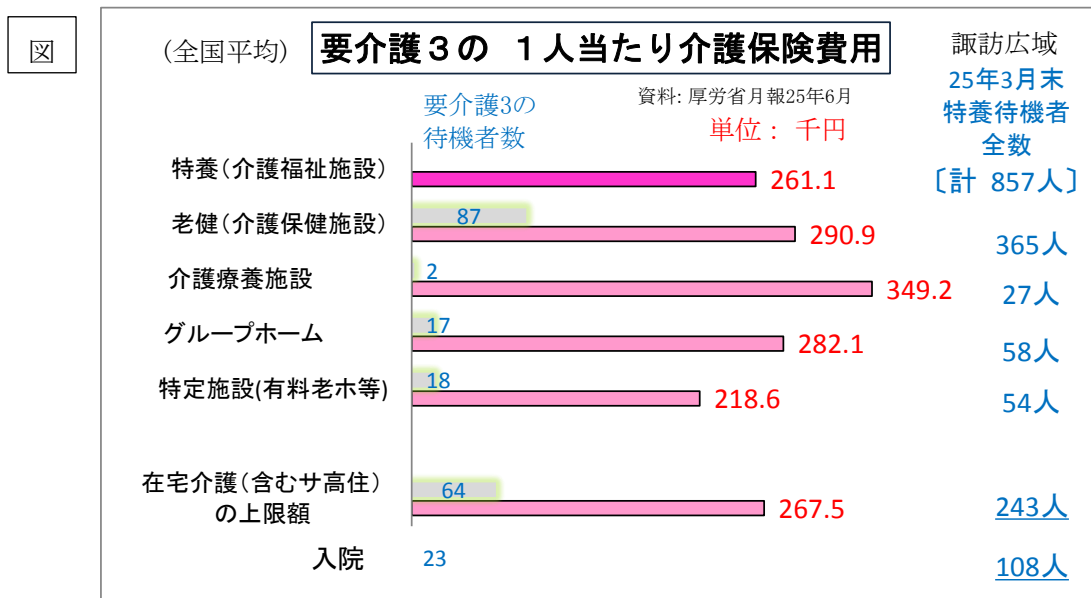


特養は他の介護施設より財政負担が大きいとはいえません

—— 要介護者のニーズに即した入居施設の整備を ——

- 1 特養（特別養護老人ホーム）は財政負担が大きいとして施設整備が抑えられていますが、**図**のように特養の介護保険費用は、老健やグループホームなど他の介護入居施設のサービス費用や入院費用より低いかほぼ同額です。在宅介護サービスの上限額ともほぼ同じです。従って介護保険財政にとって、特養は他の施設より特に負担の大きい施設であるとはいえません。
- 2 特養は終身利用できる入居施設として、在宅介護が困難になった高齢者の終の住み家になっています。しかし施設不足のため、希望しながら入居できずにいる多くの待機者がおり 25 年 3 月現在で 857 人になります。待機期間は平均して 1 年以上あると云われ、**表**のように一時的に他施設に入居している待機者が沢山います。
- 3 「いつまでも住み慣れた家や地域で住み続けたい」というのは多くの要介護者の願いですが、介護度が重くなり在宅介護が困難になったときに頼りになるのは介護入居施設だけです。要介護者はこれからも増加し続けます。老後の安心のためには要介護者のニーズに即した介護施設の整備が求められています。



(参考) 介護入居施設の整備状況 (26 年 1 月現在) 資料: 上記と共に広域連合介護保険課

表

諏訪広域の介護入居施設	26年度末までの整備人数	(内25年度末未整備数)	施設数	(内特養の待機者数)
① 特養 (介護福祉施設)	1,117	(173)	20	-
② 老健 (介護保健施設)	924	(29)	13	365
③ 介護療養施設	140	-	5	27
④ グループホーム	360	(72)	23	58
特定(有料老人ホーム等)	699	-	14	54
計	3,240	-	-	504
[介護付き]高齢者賃貸住宅 (含むサ高住)	約 527	-	約 15	在宅 243 入院 108

25年3月現在